

印旛沼流域水循環健全化会議 第5回委員会 議事要旨

日時：2004年1月16日（金） 14：00～17：00

場所：千葉県庁中庁舎 10F 大会議室



議事要旨：

1. 現地調査結果について

- ・ 残土の資料は今回の資料で示しているより、多くあるはずである。千葉県の残土処分量は、平成13年に270件、48,000tあり、全国に対し、量で1/5、件数で1/4を占めていて、全国的に見ると異常な状態となっている。残土については、データとして捉えておく必要があると思うので、引き続き、資料収集を行ってほしい。（千葉県立中央博物館 中村）

2. 緊急行動計画書について

(1) 第1章「はじめに」について

- ・ 「印旛沼方式で進める計画」(p.2)の「4.住民とともに進める計画」の中に環境教育や意識啓発に関する内容を追加してほしい。（虫明委員長）

(2) 第2章「印旛沼と流域の現状と課題」について

- ・ 「合併処理浄化槽の普及」(p.13)という対策は、「高度処理型合併処理浄化槽の普及」という表現にして、「高度処理型」に重点をおいた方がいいのではないか。（NPO 印旛沼広域環境研究会 太田）

「合併処理浄化槽」には、通常型と高度処理型の両方を含んでいる。高度処理型への転換は費用が高くなること、また単独処理浄化槽から通常型への転換による負荷削減の効果はあることから、合併処理浄化槽も対策として入れている。（水質保全課 守）

(3) 第3章「水循環健全化目標」について

1) 目標の表現について

- ・ 目標の中に「印旛沼」や「流域」は付けるべきか。（虫明委員長）
当初は、「印旛沼」のみとしていたが、沼だけでなく流域全体を表現する必要があると考え、「流域」を追加した。（事務局 吉田）
住民としては、「流域」を付けた方が、沼だけでなく全体の問題として捉えることができる。（佐倉印旛沼ネットワークの会 金山）
- ・ 目標1に、「泳げる」だけでなく、「遊べる」を追加するべきか。（虫明委員長）
親水性を考慮するのであれば、「泳げる」だけでは表現が足りないと感じる。もし、「遊べる」を追加するのであれば、「泳げる」の前に置いた方がよい。また、語尾には「印旛沼」だけでなく「流域」も追加するべきである。（千葉敬愛短期大学 堀田）

「遊べる」を付けた方が、市民に受け入れられやすいと思う。(NPO 印旛沼広域環境研究会 太田)

2) 評価指標について

- ・ 評価指標に「湧水」を加えることは賛成だが、その場合は「質と量」の両方を考慮した指標とすべきである。(虫明委員長)
- ・ 評価指標のうち、水質(COD)8mg/Lと水の清澄性、アオコ発生との関連が見えにくい。(印旛沼環境基金 本橋)
- ・ 評価指標にCODを入れるのであれば、「清澄性」や「アオコの発生」は「COD 8mg/L」に含まれると考え、評価指標に入れない方がよいのではないか。(印旛沼環境基金 本橋)
CODは、公共用水域水質測定結果として、広く一般にも公表されているものであり、また、「アオコの発生」や「沼底が見える」という評価指標は、一般の住民にも理解しやすいと考え、設定した。(事務局 吉田)

「評価指標」とするのであれば、客観的に評価できるものとする必要がある。「見える」や「拡大」という表現では、今後、評価していくことは難しいと思う。ただしここで、「指標」という言葉を用いないのであれば、現在の表現方法でよいのではないか。(千葉県立中央博物館 中村)

計画書全体の構成から、評価指標を考えるべきである。人間を主体にして考えると「COD 8mg/L」だけでなく、「清澄性」や「アオコの発生」も指標になり得ると思う。(東京情報大 原)
「目標の評価指標」という表現ではなく、「目標の評価指標とイメージ」とするなど、抽象的な表現を許容する表現にしてはどうか。水質の指標がCODだけになると、わかりにくくなってしまわないか。(虫明委員長)

計画書での表現の方法は、専門家の視点と住民にとってわかりやすいものとの折り合いが必要だろう。(東京大学 味埜)

- ・ 「生き物」の視点と「清澄性」の指標を絡めて、「岸から生き物が見える」という表現はどうか。(千葉敬愛短期大学 堀田)
- ・ 定性的な表現を指標に併記してはどうか。(千葉県立中央博物館 中村)
- ・ 指標は、これまで測られているもの、または、住民にもわかりやすく観測できるもの、にすべきである。(国土交通省 河瀬)
- ・ 「水生植物群落」の評価のために、「指標種」として具体的な種を挙げてはどうか。(千葉県立中央博物館 中村)
- ・ 特定の種を掲げることによって住民の関心を高める効果があるが、その場合は、そのように決めた背景と根拠を明記する必要がある。(国土交通省 河瀬)
- ・ 特定の種を掲げることにより、その種が棲める環境を維持するという意味を含ませることができるが、その場合は特定の種を掲げる背景の説明が必要である。また、沈水植物群落などのようにまとめりとして表現したほうが、一般の人にわかりやすい場合もある。表現方法には二通りあり、どちらを選ぶかは個々の判断によると思う。(東京情報大学 原)
- ・ 高村総括研究官(国立環境研究所)の話では、現在の印旛沼の環境を考慮すると、生物の種

類を特定してしまうと目標達成が難しくなるのではないか、ということであった。(事務局 吉田)

- ・ 目標達成の可否を考慮せずに、ある程度、理想を高く掲げた目標にした方がいいのではないか。(千葉県立中央博物館 中村)
- ・ 人によって生き物に対する思いが違うため、指標となる生物の種類は限定しないほうがよい。(印旛沼環境基金 本橋)
- ・ 沼のイメージが重要である。沼が、「きれいか、汚いか」という指標であれば、がわかりやすいと思う。(印旛沼土地改良区 清水)

(4) その他

- ・ 面源負荷が横ばいで推移していることは、市街地の増加と農地・山林の減少のバランスで横ばいになっているのではないか。将来の予測では、環境保全型農業の実施と農地面積から負荷を予測することができるのではないかと思う。(東京農業大学 藤井)
- ・ 対策の役割分担が具体的であり、わかりやすいと感じる。また、住民とともに進める部分がさらに具体化できるとよいと思う。(リバーフロント整備センター 吉川)
- ・ 現在、沼を利用している人たちが、沼がどうあるべきかと考える視点が考慮されていない。(東京農業大学 藤井)
- ・ 長期目標の中では、農業や漁業に関わっている人など、いろいろな立場の人の意見を取り入れるべきである。(東京農業大学 藤井)
関係する人が集まって議論できるしくみを、今後、みためし期間の中でつくっていくことが必要になると思う。(虫明委員長)
現在は設けていないが、今後検討していきたい。(水質保全課 守)
- ・ 印旛沼の水を飲料水として利用しているが、現在、水質悪化のため浄水処理は限界に近い状態である。計画書の対策を推進して、印旛沼の水質をきれいにしていきたいと考えている。(水道局 松尾)
- ・ 今回の議論を踏まえた計画書の修正は、委員長と事務局の間で行うこととする。また、計画書(素案)の基本的事項は了承いただきたい。(虫明委員長)
異議なし。(委員一同)

4. 緊急行動大会について

- ・ 首長フォーラムと首長挨拶はどこの市町村の首長が担当するのか。(NPO 印旛沼広域環境研究会 太田)
首長フォーラムは成田、佐倉、印旛、本埜、八千代、富里の各市町村長、首長挨拶は八街市長に依頼している。
- ・ 当日はどのような資料を配付する予定か。(佐倉印旛沼ネットワークの会 金山)
資料編の一部を除き、緊急行動計画書を配布する予定である。(事務局 吉田)
- ・ 広報活動はどのように行うのか。(虫明委員長)
市町村の広報紙への掲載や、駅のポスター、ラジオ(bay fm)での宣伝を予定している。(事

務局 吉田)

- ポスターは既に掲示されているのか。(NPO 印旛沼広域環境研究会 太田)
昨年中に、各市町村や駅に依頼済みである。(事務局 渡辺)
- 当日、会場の駐車場はどのようになっているのか。(NPO 印旛沼広域環境研究会 太田)
前回の県民大会(2002年7月)と同様の対応を考えている。(事務局 渡辺)
- 当会議の内容(会議の経緯、名簿など)を当日配布する資料に追加してはどうか。(佐倉印旛沼ネットワークの会 金山)
参考資料編に入れる予定である。(事務局 吉田)

以上